

国語科学習指導案

日時 平成17年11月11日(金) 3教時

生徒 3年B組 男子22名 女子15名 計37名

指導者 岡崎 景子

研究主題

生徒が真剣に取り組む授業の創造

～ 基礎基本の充実・徹底を軸とした授業の展開 ～

部会テーマ：自己課題解決能力の育成

1、単元名

『古典を味わう』

題材名 漢詩

2、単元について

中学校の古典学習のまとめの単元である。「味わう」という学習活動にふさわしい古文・漢文が選ばれている。俳句・和歌・漢詩という短詩型文学を教材とすることで凝縮された作者の思いにふれることができる。本単元では、日本および中国の優れた古典作品を読み、その表現に凝縮された古人の思いやものの見方・考え方に対する理解を深めたい。

3、題材について

一年次では「古典にふれる」という単元で『故事成語』を学び、中国の古典にはじめてふれ、親しんだ。二年次では「古典に親しむ」という単元で『論語』を読み、訓読文から書き下し文になおして音読するなど、漢詩の約束事について学んだ。このように一年生から段階的に中国で書かれた文章について学習している。本題材は、三年生の集大成として中国文学の最高峰である漢詩を学習し、漢詩を味わい、古人のものの見方や考え方にふれ、また、漢詩特有の表現を学ぶことを目指している。

4、生徒の実態

明るく優しい気持ちを持つ生徒が多く、男女関係なく協力する様子がみられる。授業に対して積極的に取り組む姿勢もみられ、自ら挙手して発言することも多い。授業中の質問も多く、自ら学習を深めることもできる。しかし、基礎学力が身につけていない生徒もあり、集中力にけることもあるので適切な声かけをしていく必要がある。

5、研究主題との関わり

研究主題

『生徒が真剣に取り組む授業の創造』

～ 基礎基本の充実・徹底を軸とした授業の展開 ～

部会テーマ：自己課題解決能力の育成

☆基礎基本の充実・徹底： 反復音読の重視

漢文のリズムに慣れ、読んでわかる楽しさを知る。

☆自己課題解決能力の育成： 二つの詩を読み、描かれている情景や心情をとらえる。

6、単元の目標と評価

「おくのほそ道」

【目標】

- ① 昔の紀行文を味わい、自然との出会いに目を開く。
- ② 俳文の特徴に注意して読み味わう。

【評価規準】

- ・ 古文のリズムや俳文の特徴に注意して読むことができる。(言語)
- ・ 芭蕉の思いをとらえることができる。(読む)
- ・ 本文に基づき芭蕉の思いについて想像を広げ、自分の考えを書き表すことができる。(書く)

「古人の歌～万葉・古今・新古今」

【目標】

- ① 和歌を味わい、古人の人間や自然に対する思いにふれる。
- ② 和歌の効果的な表現や語句を理解する。

【評価規準】

- ・ 句切れやリズムに注意して読むことができる。(言語)
- ・ 語彙をつかみながら音読することができる。(読み)
- ・ それぞれの歌の効果的な表現や語句を踏まえ、描かれた情景や作者の思いを述べることができる。(読む)
- ・ 好きな歌をえらび、情景を想像して解釈しながら物語風の文章を書く。(書く)

「漢詩」

【目標】

- ① 漢詩を味わい、古人のものの見方や考えにふれる。
- ② 漢詩特有の表現に注意して読み味わう。

【評価規準】

- ・ 二つの詩の形式上の違いや特色を述べることができる。(言語)
- ・ 李白、杜甫の詩に描かれた情景や心情を述べることもできたか。(読み)
- ・ 読み取った詩の意味を暗唱や朗読に生かすこともできたか。(読み)

「言葉の研究室② 語の構成」

【目標】

- ① 語の構成する部分どうしの関係について理解し、さまざまな語句や熟語の組み立てについて関心を持つ。

【評価規準】

- ・ 語の構成部分の順序と語義との関係、構成する部分どうしの関係、語とはどのように成り立っているものなのか、などについて理解できたか。(言語)
- ・ 多義語、同音語について理解できたか。(言語)

7、指導計画 「漢詩」(4時間扱い:本時3/4)

時	～学習活動～ 教師のかかわり	評価規準			
		関心・意欲・態度	話す・聞く	読む能力	言語についての知識・理解・技能
1	<p>漢詩について基礎知識を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生までに習ったことを確認する。(白文・訓読文・書き下し文) ・二つの詩の範読を聞き、読み方を確認する。 ・各自音読を繰り返し練習する。 ・全体で音読する。 ・暗唱する。 ・二つの詩を書き下し文に直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩に興味関心をもって読むことができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 書き下し文に直すことができる。 漢文のリズムや独特の表現に注意して読むことができる。
2	<p>漢詩の基礎知識を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 五言詩・七言詩について ② 絶句・律詩について ③ 絶句・律詩の特徴やきまり ④ 押韻について ⑤ 対句について 				<ul style="list-style-type: none"> 基礎的事項を知る。
本時	<p>『黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る』に描かれている情景や作者の心情をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの確認(七言絶句・押韻) ・読みの確認(各自音読・指名暗唱) ・重要語句を確認する。 ・詩でえがかれている情景について「いつ」「どこで」「だれが」「何を」しているところか具体的に考える。 ・自分の考えを他者と交流する。 ・その時の作者の心情を詳しく考える。(全体交流) ・内容を踏まえ、朗読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までを振り返り考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩に描かれた情景・作者の心情を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要語句について理解する。
4	<p>『春望』に描かれている作者のおかれている状況や心情について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの確認(五言律詩・押韻) ・読みの確認(各自音読) ・詩でえがかれている作者のおかれている状況を理解する。 ・その時の作者の心情を考える。 ・自分の考えを他者と交流する。 ・重要語句を確認する。 ・内容を踏まえ、朗読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までを振り返り考えることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・詩に描かれた作者のおかれている状況や心情を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要語句について理解する。

8、本時

(1) 本時の目標

- ① 漢詩特有の表現に注意して読む。
- ② 「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」の詩にえがかれている情景や作者の心情を把握する。

(2) 展開

段階	学習内容	生徒の活動	教師の活動(評価)
導入	<p>前時の復習</p> <p>本時の学習内容の確認</p>	<p>「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」を全体で一斉に読む。暗唱する。</p> <p>重要語句を確認する。(故人・煙花・孤帆・天際)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」にえががれている情景や作者の心情はどのようなものだろう。</p> </div>	<p>・暗唱を指名する。</p> <p>(難読語句に注意し読むことができる。(知識・理解・技能))</p> <p>・課題提示をする。</p>
	展開	<p>本文読みとり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・詩にえがかれている情景(場面)について自分なりの考えを持つ。(プリントに鉛筆で記入) ・他者と意見を交流する。(プリントに他者の答えを色ペンで記入) ・全体交流(発表)(他者の答えは色ペンで記入) <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・旧友の孟浩然が西の方にある黄鶴楼から広陵に行く場面。 ・春の霞が立ち上る三月に帆かけ舟で長江を下っている。 ・舟が青空に吸い込まれ見えなくなっても長江が天の果てまで流れているのをずっと見ている。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で確認した情景を踏まえて、作者がどのような気持ちだったのか、作者の心情を考える。(個人でプリントに鉛筆で記入) ・全体で確認する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>友人と別れる寂しさを描いている。</p> </div>

整理	本時の学習を振り返る	「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」の詩を本時の学習を振り返りながら、代表の生徒が読む。	・音読する生徒を指名する。
	次時の予告	次時の学習内容を知る。	・次時の学習内容を知らせる。

(3) 評価

- ① 「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」の詩にえがかれている情景や作者の心情を読み取ることができたか。(読む)
- ② 積極的に交流し、発表することができたか。(関心・意欲・態度)